

# あなたもチャレンジ 家庭菜園



園芸研究家 成松次郎

## 小玉スイカ 甘みが強く手頃な大きさ



スイカはアフリカ南部カラハリ砂漠が原産のため、高温、強い光と乾燥でおいしいものが取れます。中間地では温床内で3、4月に種をまき、7、8月に収穫します。生育と病気に強い接ぎ木苗が市販されており、利用すると便利です。

【品種】家庭菜園では重さ2、3kg程度の小玉スイカがお薦めです。赤肉球形では「姫甘泉」「丸種」、「紅しずく」（タキイ種苗）、「紅こだま」（サカタのタネ）など、赤肉楕円（だえん）形では「姫まくら」（丸種）、「マダーポール」（ヴィルモランみかど）などがあります。

【種まき】温床マットなどで25〜30度に加温したトンネル内（図1）で培養土を詰めた9cmポリポットに3粒ずつ種をまきます。本葉が出始めた

頃には夜温15〜20度に下げます。その後、良い苗を残し間引いて1本にし、本葉4、5枚の苗にまで育てます。

【畑の準備】植え付け2週間前までに1平方m当たり1000g程度の苦土石灰を散布し、土とよく混ぜておきます。次に、畝幅250cm、深さ20cmの溝を掘り、この溝1平方m当たり化成肥料（NPK各成分10%）1000gと堆肥2kgを施します。この溝を中心に土を戻して幅90cm、高さ10cm程度のベッド（栽培床を作り（図2）、黒マルチを張ります。

【植え付けと保温】風のない暖かい日に、深植えにならないよう株間80〜90cmに植え付けます。植え付け後は保温と風よけのために、ビニールで30cm角の「あんどん」やドーム状のホットキャップをかぶせます（図3）。あんどんの中が茎葉でいっぱいになったら取り外します。

【整枝・敷きわら・追肥】本葉5、6枚で摘心し、強い子づる4本を伸ばします。つるが伸びていく場所に合わせてつるが絡むシートを敷き、つるを片方に振り向けて重ならないように配置します（図4）。つるの長さが

50cm程度と果実が卵大程度のとき、1株当たり化成肥料50g程度をつる先に散布します。

【人工交配・摘果】強い子づる3本に着果させるため、親づるから数えて15〜20節目の雌花全てに交配します。早朝（9時ごろまで）に雄花を切り取り、花粉を雌花の柱頭になすり付けます。このとき、交配した雌花の近くに交配日を記したラベルを付け、収穫適期の目印にします。果実がこぶし大のときに変形果を摘果し、各つる1果（計3果）取りを原則とします。

【病害虫の防除】茎葉が日中しおれ、茎が割れるつる割れ病には、接ぎ木苗を使います。うどんこ病、アブラムシ、ハダニなどが発生したら登録農薬で防除します。

【収穫】小玉スイカは開花後（交配後35〜40日）で熟してきます。収穫適期は、①巻きひげが枯れている ②果実の肩が張り光沢が出ている ③果実の尻の部分がへこみ、指で押すと弾力を感じる ④地面に付く果皮が濃黄色となるなどでも判断できます（図5）。

※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

栽培カレンダー（小玉スイカ）



## 花卉部会便り 小菊 栽培者 大募集



花卉部会では、仏花等に用いられる長さ45cmの規格の小菊を大阪と京都の市場に出荷しています。栽培・出荷していただける方を大募集しています。栽培方法等を説明させていただきます。ご連絡をお待ちしております。

### 花の作業スケジュール

品目	1a当たり 定植本数	3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		
		上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
小菊	1,600本	お盆			押し芽	定植							収穫									
		お彼岸				押し芽	定植							収穫								
		10月咲					押し芽	定植							収穫							
		11月咲						押し芽	定植								収穫					



お問い合わせ先/特産振興課 担当 加納 ☎0749-63-2108